

はたらくきずな

パイロット事業所を
2社指定!!



株式会社コーチョー

渡邊啓視 取締役福祉事業部長



富士センコー運輸株式会社

江藤寅雄 代表取締役社長

働きづらさを抱える人たちを社員として受け入れ、富士市内の他の事業所にそのノウハウを積極的に公開していただける「パイロット事業所」が相次いで誕生しました。第1号は介護福祉事業などを展開する株式会社コーチョー（本社・富士市厚原）、そして第2号が貨物自動車運送・構内荷役事業などの富士センコー運輸株式会社（本社・富士市大野新田）です。

それぞれ市のユニバーサル就労推進事業に当初から協力していただき、ユニバーサル就労支援センター（以下、支援センターとする）の支援などを得て、若い女性と高齢の男性を雇用することになりました（関連記事を本紙3面に掲載しています）。

富士市ではさまざまな事業所が働きづらさを抱える市民を雇用できるよう、先行する事業所をパイロット事業所として指定し、情報公開しています。雇用に至るまでの苦心や工夫などの情報を共有してもらい、一人でも多くの方が就労できるようにユニバーサル就労を推進していく方針です。

ユニバーサル就労推進 特別委員会開かれる

支援センターのこれまでの実績が、このほど開かれた市議会特別委員会で報告されました。これによると7月末までの相談・問合せは39件(昨年度1年間に95件)、支援者18人(同56人)、就職者15人(同19人)でした。昨年からの今年7月までの支援状況をそれぞれの層別にみると、年齢では20代が21人と最多、次いで40代が16人、60代が14人でした。男女別では男性49人、女性25人でした。20代10人、40代と60代各7人など34人が就労しましたが、体調不良などで6人はすでに退職しています。



特別委員会終了後、同委員会委員と支援センター、ユニバーサル就労広報室の情報交換会も開かれました。三者が一堂に会するのは初めてで、議会側からは認知度をさらに高めるために、サポーター募集を企業だけではなく、いろいろな団体に広げていったらどうかーなどのアドバイスや、高齢者、外国人雇用の問題などについても質問が出ました。

農福連携シンポジウム 開かれる

富士市議会ユニバーサル就労推進議員連盟はこのほど、「農福連携シンポジウム」を開催しました。今年の活動の目玉のひとつで約80人が参加しました。

基調講演の濱田健司さんはJA共済総合研究所の主任研究員を務める傍ら、全国農福連携推進協議会会長として、農水省、厚労省の橋渡しをするなど農福連携の最前線で活躍しています。濱田さんは「農福連携」が「障害者が農業に従事する」という考え方から、高齢者や生活困窮者など幅広い人たちが農業活動を行うように変化してきたことなどを紹介。「真剣ではあるけれども深刻にならないように」と連携への心構えをアドバイスしました。また農業指導にJAのOBや組合員、県の農業改良普及員などを活用するよう提案しました。

パネル討論では、市内大沢で障害者就労継続支援B型施設スマイルベリーファームを経営する豊田由美さんがパネリストを務めました。会場からは、農業を知る指導員の存在が重要との指摘があった一方、施設側からは最近では福祉志向の人に農業をやってもらうより農業志向の人を指導員として採用するケースも出ていることなどが紹介されました。

就労支援と生活支援の 相談窓口が連絡会 グループに分かれ意見交換も



富士市内の就労支援・生活支援窓口の連絡会が開かれ、初参加の特別支援学校など20余りの施設・団体から約30人が参加しました。PR動画「2分でわかるユニバーサル就労」を見た後、市生活支援課とユニバーサル就労支援センターの担当者が、社会的な適応能力に問題を抱え自信をなくした人などをどう就労に結び付けていくか、など順を追って紹介しました。

今回は具体的な問題点や疑問点を挙げて解決策などを探るグループ討議も初めて行われました。出席者を対象に実施したアンケート(対象者22人)では、ユニバーサル就労推進事業についてはほぼ全員が「理解できた」と答えましたが、ユニバーサル就労支援センターを利用したいかどうかについては「ぜひ利用したい」13人、「利用には検討が必要」6人でした。理由

視察相次ぐ

としては「個人情報守秘義務に抵触する可能性」などが挙げられました。これまでに「ユニバーサル就労のような支援に結び付けたい」と思える利用者がいましたか」との問いには18人が「いた」と答え、既に連携済みの窓口もありましたが、実際に就労までこぎつけたケースは少ないことも明らかになりました。

参加者からは「様々な窓口があることに気付くことができた」等の感想が聞かれました。

支援センターには今年の夏も全国各地からの視察が相次ぎました。7月11日は新潟市議会、26日は山梨県南アルプス市の社会福祉協議会、8月10日は川崎市の民間団体「子どもの貧困を考える研究会」、8月29日には神戸市会などです。

このうち川崎市のグループは若者就労自立支援センターや生活自立・仕事相談センター、市生活保護・自立支援室職員に弁護士さんも同行。富士市のユニバーサル就労支援が市民の署名から条例制定、支援センター設立まで進んでいた過程とそれがうまくいった理由、コミューター制度についての労基署とのやりとりなどを興味深そうに質問していました。

パイロット事業所はこんなところ!

体調に不安を抱える若い女性と体力的に働く時間を調整したい高齢者の採用に踏み切った2社がこのほど、富士市ユニバーサル就労推進事業の一環としてパイロット事業所に指定されました。どんな企業がどのような職場でユニバーサル就労を実現できたのか、2つの会社を紹介します（より詳しい情報を富士市ユニバーサル就労推進事業のwebサイトに掲載しています）。

株式会社コーチョー

体調不安でも仕事がしたい

コーチョーが平成15年にオープンした「ふじやま」は福祉用品の販売のほか、車いすやベッドのレンタルなどを行っています。ユニバーサル就労に関心を深めたのは企業説明会への出席がきっかけでした。福祉事業部長の渡邊啓視さんは、コーチョーに、福祉事業部を立ち上げ、NPO 活動を通じて福祉に強い関心を持っていました。

コーチョーが採用したIさんは、大学在学中に骨髄性白血病にかかり、卒業が同級生より2年遅れになりました。大学卒業を控え帰郷していた時に、新聞記事や両親からユニバーサル就労について知りました。Iさんはまず同センターで就職に関する知識を学び、就労体験、無償コミューターを経て採用が決められました。Iさんは今、週4日午前9時から午後3時まで働いています。午前中はファイルの整理、午後は営業部門のサポートなどを行っています。

「ふじやま」の統括マネージャー渡邊佳那子さんは「体調に不安を抱えていても出来る仕事はあります。仕事を切り分けることで営業社員も動きやすくなっています」とIさんの仕事ぶりを評価しています。Iさんは「毎日決まった時間に勤めに出かけて、仕事して帰る。『私にも働ける』と自信になりました」と笑顔で話しています。



統括マネージャー 渡邊佳那子さん

富士センコー運輸株式会社

年齢に合わせた働き方で

富士センコー運輸は貨物自動車運送などを中心に幅広く事業展開しています。求人誌やハローワークで、シルバー人材センターを活用しようとしたが思うように集まらなかったそうです。平成29年にユニバーサル就労支援センターから高齢の働き手を紹介されたのをきっかけにユニバーサル就労にも関心を向けました。職場見学には、これまでに9人が訪れました。

採用された66歳の男性Aさんは定年退職後、年金での生活を送っていましたが、生活費が不足すると考え、体力的にも可能な短時間労働の職場を探しましたが、望むような職場は見つからず、また企業側の希望する年齢帯にも合わず、ユニバーサル就労支援センターを訪れました。そこで就職のための研修や職場見学を重ね、富士センコー運輸で職場体験をし、働くことが決まりました。Aさんは「短時間でも自分の体力に合わせて働けるのがいいですね」と満足そうです。現在週3日午前8時から午後4時まで、残る2日間は午前中だけ勤務して荷物の移動作業などを行っています。

同社取締役事業部長の小野透さんは「ユニバーサル就労支援センターを通すと就労希望者の情報が正確に入るし、職場見学、就労体験、コミューターと段階を経て判断できるのでいいですね」と評価しています。



取締役事業部長 小野透さん

支援センターから

就労支援員 須藤範子さん



支援センターが開所して1年と5か月が経過しました。様々な働き方、様々な抱えた方々が

支援センターに繋がりが、働きづらさの内容も一人ひとり全く異なることをあらためて実感しています。現在、企業説明会参加企業が134社となり、その内67社の企業様に企業として登録していただきました。今も日々富士市内の企業様を訪問させていただいている中で、少しずつユニバーサル就労の認知度が上がっていると感じています。その一方、まだまだ周知されていない部分もあり、一社でも多くの企業様にユニバーサル就労という仕組みをご理解いただきご協力いただけるよう日々奔走しています。

働きづらさ抱えている方の中には自信を失ってしまっている方も多く、そんな方々にとって職場見学、就労体験、コミューターといった企業様との接点の場は、自信回復やステップアップに繋がる原動力ともなっているようです。

一人でも多くの方がその方にあった働き方を見つけその方にあった就労先に繋がることをできるよう、またユニバーサル就労の支援の輪が広がるよう、今後も全力で取り組んでまいります。

キッズジョブでPR活動



8月18日と19日にふじさ
んめっせで
キッズジョブ
2018が開
かれました。
未来の自分
を見つけに行
こうと、テー
マに、子ども
たちがプロの
指導のもと、
職業疑似体験
子どもたち主
体のフリーマ
ーケットの開
催など様々な
体験ができる
とあって、多
くの家族連れ
が訪れました。

広報室は独自のブースを設け、富士市のユニバーサル就労の取り組みをPRするとともにシールアンケートを実施しました。協力していただいた約180人の市民の回答により、と、「ユニバーサル就労」という言葉を聞いたことがある」と答えた人は22%、「身近に働きたいのに働いていない人がある」という人は44%という結果でした。働きたいのに働いていない人の割合は半数以下でしたが、子育て真っ最中の若い世代が中心だったためか、ユニバーサル就労という言葉を知っていたのは22%止まり。昨年のアンケート調査で

徐々に認知度が高まっていると思っただけに、少々残念な結果でした。
広報室では引き続き各種のイベント会場でシールアンケートを実施する予定です。
「シールアンケート実施イベント」
・市民福祉まつり

10月21日(日)
中央公園イベント広場
・富士市産業まつり商工フェア
11月3日(土)
中央公園イベント広場
・富士の麓deおとなまつり
12月1日(土)
富士市交流プラザ

参加費無料
申込不要

富士市社会福祉大会

平成30年11月21日(水) 13時～
ロゼシアター中ホール



社会福祉大会は社会福祉に功
労のあった方々の表彰などを目
的に毎年開かれています。

今年の大会では富士市が今年
初めて指定した「ユニバーサ
ル就労パイロット事業所」2
社による活動発表と、「日本
でいちばん大切にしたい会
社」などの著書で知られる
元法政大学大学院教授坂本
光司氏の『人を幸せにする
会社、誰でも働ける社会』
をテーマにした記念
講演も併せて予定して
います。

サポーター登録のおねがい

富士市のみんなでユニバーサル就労を育てよう！サポーターに登録された方には、月1回程度のメルマガ情報、年4回の情報紙の情報提供をしています。登録料・年会費は無料、口コミやシェアなど様々な方法でユニバーサル就労の広報・周知にご協力をお願い致します。

●Webから
HPの登録フォームに記入、送信して下さい。
HP: <http://f-uw.com>

●申込用紙から
「ユニバーサル就労サポーター募集リーフレット」
に申込書が添付されています。(ご希望の方には郵送いたします。)

サポーター数: **254名** (8月末現在)



読者の意見・提案募集

富士市ユニバーサル就労広報室は、読者のご意見やご提案を募集しています。

〒416-8558 富士市本市場 432-1
フィランセ東館1F
富士市ユニバーサル就労広報室
TEL: 0545-32-7009
Email: f-uw@machi-yumin.com



facebook twitter も
チェックしてみね！



■ 7月の有効求人倍率 (ハローワーク富士管内): **1.53倍** 前月比 **-0.05** ポイント 前年比 **+0.13** ポイント